



# 極真への道

第2号



国際空手道連盟社団法人極真会館愛媛県戸田道場機関誌

*AllJapanKyokushin Union*

# 結成1年を迎えて



国際空手道連盟社団法人極真会館（全日本極真連合会）  
愛媛県戸田道場 代表 戸田 美智男

早いもので、新しい組織を立ち上げて5月で1年が過ぎました。  
当初3つの組織であったのが、1年後には7つの組織となり会員も倍増して200人を超えました。  
これも営利を考えず極真空手を修行する道場生のために、多くの施策を行ってきた結果ではないかと思っています。

## 会員の経費軽減

加盟道場から分担金など費用は一切徴収せず、その分金銭的な余裕ができた分、大会費用や選手育成費など有効な費用を出してもらいました。  
そのため昨年11月に開催した部内交流大会では加盟道場が費用を負担することにより選手の出場料を無料にしました。  
また、合宿費用は必要経費のみとし、その中でもお手伝いしていただく黒帯の方は懇親会を含む全ての費用を免除し、さらに昇級審査料も必要最小限度の額とするなど会員に余分な費用が掛からないように留意しました。  
「極真空手は金がかかる」という声を払しょくしたのではないのでしょうか。

## 大会の公的認知拡大

今年3月に大洲警察署、愛媛県警極真空手部と合同で開催した第15回大洲少年空手道大会では、極真会館だけでなく他の流派にも呼びかけ、オープンな形で運営し、その上、優勝した選手が在籍する小・中学校に校長先生から全校生徒の前で表彰していただくようお願いしたところ、多くの学校で実施して頂き、選手や保護者の方に喜んでもらいました。

## 強化選手制度

他流派の大会等に積極的に選手の出場を図り、自派の中だけで満足する「井の中の蛙」であることからの脱却を図ってきましたが、その中で優秀な成績を収めた選手を「強化選手」に指定して、加盟道場で資金を分担して予算を組み、全ての大会の遠征費を援助し、選手に費用を心配せず空手に打ち込める環境を構築し第一号に志賀賢一選手を指定しました。

こういった施策は、各道場責任者が何をすれば道場生の為になるかに活発に意見が出され、それを尊重しながら行ってきたものであり、今後も同様に各種計画を実現していきたいと思っています。

ただ、各種大会を通じて各流派は想像以上に手強く「極真」の名前だけでは勝てないことを痛切に感じています。

そのためには、選手強化をさらに図り各種大会にどんどん出場して、他流派の方々と交流を深め切磋琢磨していきたいと考えています。

会員、支援者の皆様のご理解、ご支援をお願い致します。

# 第15回大洲少年空手道大会開催

～如水会館など他流派参戦～

3月8日（日）恒例の大洲少年空手道大会が、大洲市総合体育館メインアリーナにおいて、15回という節目を迎えて開催されました。

今回から、他流派に門戸を開き如水会館（原田館長）、福田道場（福田館長）、青空会（渡辺館長）の3会派が初めて他流派として参加しました。

試合は個人戦組手のみで行われましたが、今回からは道場ではなく在籍する小・中学校の代表として出場する形式とし、優勝者の学校に校長先生が全校生徒の前で表彰するように要請したところ、多くの学校で実施され、選手は名誉なことと喜んでいました。

試合は各道場の仲間が大きな声で応援する中、激しい闘いを繰り広げました。試合の様子は、地元ケーブルテレビと愛媛新聞で報道されました。

今回から他の大会に倣い、全学年でボディプロテクターをつけずに行いましたが、一人の怪我人もなく無事に終了しました。



空手界の選手が目指す大会になるよう、組織を挙げて取り組む予定です。（大会入賞者）

## 入賞者

小学1年生の部（男女混合）

優勝 山田遙葵（松山・河野小学校）、準優勝 宮本陽菜（宇和島・三間小学校）、  
3位 大石大輝（宇和島・成妙小学校）、4位 平井完樹（松山・余土小学校）

小学2年生の部（男女混合）

優勝 菊川慎（今治・波方小学校）、準優勝 藤田冴鳥（新居浜・金子小学校）、  
3位 石川楓哉（新居浜・船木小学校）、4位 菊川真莉妙（今治・近見）

小学3年生の部（男女混合）

優勝 岡銀次郎（松山・堀江小学校）、準優勝 濱田暖香（今治・桜井小学校）、  
3位 二神京平（松山・堀江小学校）、4位 福田美空（松山・堀江小学校）

小学4年生男子の部

優勝 市原滉大（新居浜・角野小学校）、準優勝 永井信太郎（今治・富田小学校）、  
3位 武本勇大（今治・清水小学校）、4位 大口嵩弥（松山・日浦小学校）

小学5年生男子の部

優勝 大野祐貴（新居浜・船木小学校）、準優勝（新居浜・船木小学校）、  
3位 竹田友哉（松山・堀江小学校）、4位 石川怜哉（新居浜・船木小学校）

小学5年生女子の部

優勝 岩井玲樹（松山・久枝小学校）

小学6年生男子の部

優勝 青山虎之助（新居浜・角野小学校）、準優勝 堀井強吾（松山・和気小学校）

小学6年生女子の部

優勝 曾我部歩果（新居浜・神郷小学校）、準優勝 山本杏奈（松山・素鷲小学校）

中学男子軽量級

優勝 林田 和己（新居浜・船木中学校）、伊藤治人（新居浜・角野小学校）

## 冬合宿 新たにウォークラリーを実施

新しい組織となって2回目の合宿である冬合宿を2月9日（土）、10日（日）の2日間大洲青少年交流の家で行いました。

極寒の中、参加者は73名と前年の夏合宿より14名多く、黒帯も16名が参加し組織の充実が感じられました。

初日は、まず型を帯の色ごとに分かれて黒帯が指導し、大山総裁オリジナルの型を反復して稽古することで、全員身に着けました。

その後、色々な技に対する受け返しを行い、最後に黒帯が少年部に対し、次に一般部に対しそれぞれ10ラウンドのスパリングを行い、全員精根尽き果てました。

合宿でスパリングをする機会は初めてのことで、今後、他流派の強豪と対戦することが多いことから、重要な稽古と位置付けて行ったのでした。

初日の稽古時間は、連続3時間に及び参加者は皆、非常に疲れましたが、入浴後には娯楽室で少年部はお菓子とジュースをいただきながらトランプ競技会、一般部は料理を前にビールとお酒を飲みながら空手談義に花を咲かせ、すっかり疲れは吹き飛びました。



(夜の懇親会の様子)



翌10日は、早朝の午前5時30分から眠い目をこすりながらミット稽古を行いました。体育館の余りの寒さに泣き出す子もいて、まさしく寒行の様相になり、自分との戦いになりました。

朝食後の午前9時から、戸田先生が警察実務で実際に犯人逮捕時に使った「投げ」の稽古を繰り返し行い、空手は突きや蹴りだけでなく実践で使える技があることを体現しました。

少し休憩して、今回の合宿のクライマックスである「ウォークラリー」を開始しました。各道場で10チームを作り、大洲青少年交流の家が作ったコースを順番に歩き、設定時間に近いタイムで歩いたチームほど高得点で、さらに、歩いたコースに関するクイズの得点の合計で順位をつけました。

結果は1位川東Aチーム、2位大洲教室Bチーム、3位川東Bチームで新居浜川東チームが2つも入賞し、賞品のキックミットなどを獲得しました。

苦しい中にも懇親会やウォークラリーなど楽しいひと時を過ごし、日頃付き合いのない道場間の「絆」を育むことができた素晴らしい合宿になったと思われました。

ただ、最後の戸田先生の講評で「声が小さい、返事がない、挨拶がない」という指摘があり、稽古以上に社会生活をする上で大切なことが足りなかったことは、指導者を含め参加者全員が反省すべきことです。

## 2月昇級審査 多くの飛び級

新組織結成後3回目となる昇級審査が2月24日（日）に愛媛県武道館副道場で実施されました。

受審者は61人と過去最高であり、会員の昇級への強い意気込みが感じられました。

全ての技ひとつひとつに戸田先生が丁寧に指導をされ、あたかも稽古のような審査でした。

今回から、型に大山総裁時代の足技太極が加わりましたが、全員しっかり稽古をしていて無難にやり遂げました。

戸田先生の方針で、技の上達が著しい者には、積極的に飛び級を認めることになり、飛び級をした審査結果に喜びの声を上げる受審者も多くいました。

これは、武道教育の一環として設立した戸田道場として、心・技・体が充実した道場生に対し「努力は報われる」「結果は稽古がものを言う」の体現であり、道場生の人格・技量に応じた帯を締めるものであると考えるからであります。

黒帯を取れるまでの期間が知事角成、会員の稽古へのモチベーションが上がることを期待されます。

## 昇級者

### 少年部

#### 2級

菅 彪雅（波方）、堀井強吾（潮見）、久保敦信（潮見）、藤堂巡（潮見）

#### 4級

矢野楓弥（川東）、木原奈美江（波方）、八木聖矢（波方）、宮園圭人（潮見）  
久保忠哉（潮見）



5 級

鳴田愛弓（波方）

6 級

曾我部立樹（川東）、矢野祐弥（川東）、野村楓利（波方）、岩井玲樹（潮見）、近藤紗也乃（潮見）

7 級

高瀬晴（東予）、木原晴菜（波方）、菊川真莉妙（波方）、中津優翔（大洲）、久保晴輝（大洲）、松本怜恩（大洲）、福井天翔（大洲）、鴻上竜也（川東）

8 級

扇山明直（波方）、矢野仁（波方）田中凱（大洲）、久保幸輝（大洲）、日野洸誠（大洲）水沼心栄（大洲）、水沼優果（大洲）

9 級

高橋みのり（川東）、白鳥美月（川東）、今井洸靖（波方）、村上友都（波方）、山岡竜斗（大洲）

10 級

曾我部綺莉（川東）、曾我部歩果（川東）、河田航太郎（潮見）、福井竜悶（大洲）、西村朔（大洲）

## 一般部

2 級

岡山拓未（波方）、西部優作（潮見）

3 級

鳴田共笑（波方）

4 級

菊池暢智（東予）、藤原賢一（波方）、菊川豊（波方）、菊川裕（波方）、白石一樹（波方）

5 級

藤原翼（東予）

6級

大谷崇文（大洲）、丹下英人（県警）

7級

烏谷伸（潮見）

9級

河田泰実（潮見）、高瀬充夫（東予）、伊東晶子（川東）、松本晃一（大洲）

## 続々と新たに道場加盟・開設

### ～波方道場加盟、味酒道場開設～

3道場でスタートした戸田道場ですが、昨年夏に新居浜川東道場、西条東予道場が加わり、さらに今年2月に今治市の波方道場が加盟をしました。

波方道場は今西生栄次2段が率いており、過去大会で多くの入賞者を輩出した強豪道場として有名で、この加盟が組織全体のレベルアップにつながるものと期待されています。

また、5月から松山市の味酒公民館で、寒作智美2段を責任者に味酒道場がスタートしました。

指導は、過去県大会、四国大会等で入賞歴のある寒作典員初段が中心となり行いますが、早速3人の入門者があり、潮見道場からの出稽古の会員と一緒に元気に稽古をしています。

この様に、1年という短期間に道場が次々と増え、今後もさらに組織の拡充が予想されます。



(波方道場の道場生達)

## 帯研 昇段指定型の稽古

4月21日（日）に本部（潮見）道場において帯研が行われ、県内から緑帯以上20人が参加しました。

戸田先生の指導で、全日本極真連合会の初段昇段指定型である、三戦、突きの型、最破と二段昇段指定型十八（セーパイ）の四つの型を繰り返し稽古しました。

ほぼ全員初めてする型に戸惑いがありましたが、繰り返し行いかなり身についた様子でした。

その後、ビックミットを使つてのコンビネーションと回り込みの稽古を行い、最後に色々な攻撃に対しての受け返しを行いました。参加者は熱心に取り組み、2時間の稽古もあっという間に終わりました。

今回の参加者には、中学生や高校生を中心に若者が目立ち、組織の未来が明るいことが感じられました。

今後、技の向上と道場生の融和を目的に、再々行う予定にしています。

## 選手稽古20人組手完遂

5月12日（日）午後4時から本部（潮見）道場において選手強化稽古が行われました。

これは6月30日に行われる全日本ウェイト制大会に戸田道場の代表として出場する志賀賢一選手と5月26日に実施される昇段審査で2段を受審する藤本努初段、寒作典員初段2人の連続20人組手の稽古をする目的で行われ、県内から11人の選手が集まりました。

最初に戸田先生の指導で多種多様なステップを使った攻撃を稽古した後、LLミットを使って各種突きと蹴り、そして回り込んでの攻撃の稽古を行い、息が上がったところで、さらに30秒ごとに時間を区切っての受け返しを行いました。

最後に1分間20人連続組手を行い、戸田先生からの「今日習ったステップや攻撃を使うという意識を持つこと。」という指示のもと、道場責任者の先生方も全員入ってスタートしました。

色帯の選手たちは黒帯に負けず、終始激しい闘いをして壮年部を除いて全員最後までやり抜いたことは自信につながったと思われます。

戸田道場では、道場生が強くなる稽古をこれからも継続していく予定です。

